宮城県農政部農村振興課

9月号
2021 Vol.2

みやぎＮＮ広報［たすきつうしん］

田水郷 通信

第8回農美里フォトコンテストふるさと賞作品
「稲の創る景色」

～次代に向けて田水郷（たすき）をつなぐ　みやぎの農業・農村～

（第３期みやぎ農業農村整備基本計画キャッチフレーズ）

優良な生産基盤（田），生産に欠かせない農業用水（水），美しい景観や伝統・文化（郷）。
次代へ継承すべきこれら「みやぎの宝」を維持・発展させ，未来へつなぐ農業農村整備事業。

本誌ではみやぎの農業農村整備事業や「田」「水」「郷」にまつわる情報とその魅力を
たっぷりとお伝えしていきます。

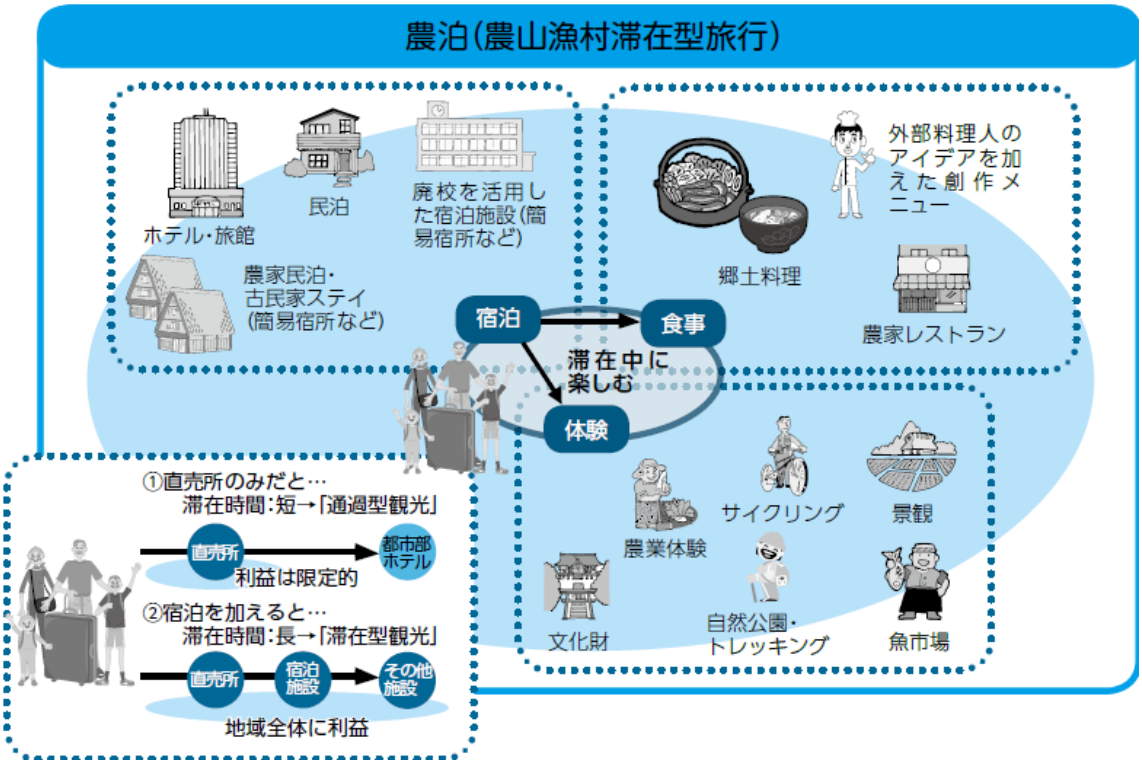
◆ Topics

- 第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会が開催されました
- 令和３年度みやぎ農業農村整備地域懇談会を開催しました
- 田んぼダムの模型を製作しました
- 田水郷コラム「稲刈り後に出現！あの秋の風物詩について」

第１回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会が開催されました

農泊とは

「農泊」とは，農山漁村地域に宿泊し，滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことです。地域資源を観光コンテンツとして活用し，インバウンドを含む国内外の観光客を農山漁村に呼び込み，地域の所得向上と活性化を図ります。



大会趣旨

農泊推進に向けて，全国の農泊推進地域・団体や自治体，企業が一堂に会し「グリーン・ツーリズムの成果を活かし，農山漁村の持続的発展へ」をテーマに意見・情報交換と相互交流のネットワーク構築を目的として，本大会が開催されました。

大会概要

当初は，令和３年９月４（土）・５日（日）の二日間でオンライン開催と現地参加の併用型で開催する予定でしたが，緊急事態宣言に伴い，５日（日）のオンラインのみに縮小して開催されました。

当日は，約300人がオンラインで参加し，それぞれのテーマに沿った総合討論や分科会等が行われました。

〇総合討論

「農泊の持続可能な展開を目指して－農の秘められた価値を世界へ，次世代へ－ 」

〇分科会

第１分科会「グリーン・ツーリズム－その実践成果の継承と発展－」
第２分科会「農泊推進における組織体制確立とネットワーク化」
第３分科会「世界農業遺産の保全活用とツーリズム」
第４分科会「日本型農泊推進における食文化活用」
第５分科会「美しい農村景観と地域資源の活用」
第６分科会「農泊の普及とその可能性」

令和3年度みやぎ農業農村整備地域懇談会を開催しました

令和３年７月１４日から８月５日にかけて，現場の状況や地域ニーズ等を把握し今後の施策展開に生かすことを目的として，県内の５管内(登米・栗原・大崎・石巻・気仙沼)において「令和３年度みやぎ農業農村整備地域懇談会」を開催しました。

コロナ禍での開催となったため例年よりも少ない人数となりましたが，市町村，土地改良区，ＪＡ，土地改良事業団体連合会，みやぎ農業振興公社の代表者の皆様にご参加いただき，農業農村整備事業の推進に当たっての意見・要望や各機関の抱える課題等について情報交換を行うことができました。

高齢化による土地改良区組合員の減少，老朽化した土地改良施設に対する維持管理労力の増加，イノシシ・シカ等の野生鳥獣による被害の深刻化，多面的機能支払い交付金の一層の活用といった話題については，複数の管内でご意見・ご要望を頂戴しており，対策や支援の必要性を改めて認識したところです。状況改善のため，今後とも国への制度要望や計画的な農業農村整備事業の推進を図ってまいります。

なお，仙台管内及び大河原管内については台風８号の上陸・新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言発令により懇談会としての開催を見送りましたが，書面によりご意見・ご要望等について情報交換を行いました。

R3.7.14登米NN 開催状況

R3.7.16北部NN 開催状況

R3.7.15栗原NN 現地調査

R3.7.20東部NN 現地調査

R3.8.5気仙沼NN 現地調査

田んぼダムの模型を製作しました

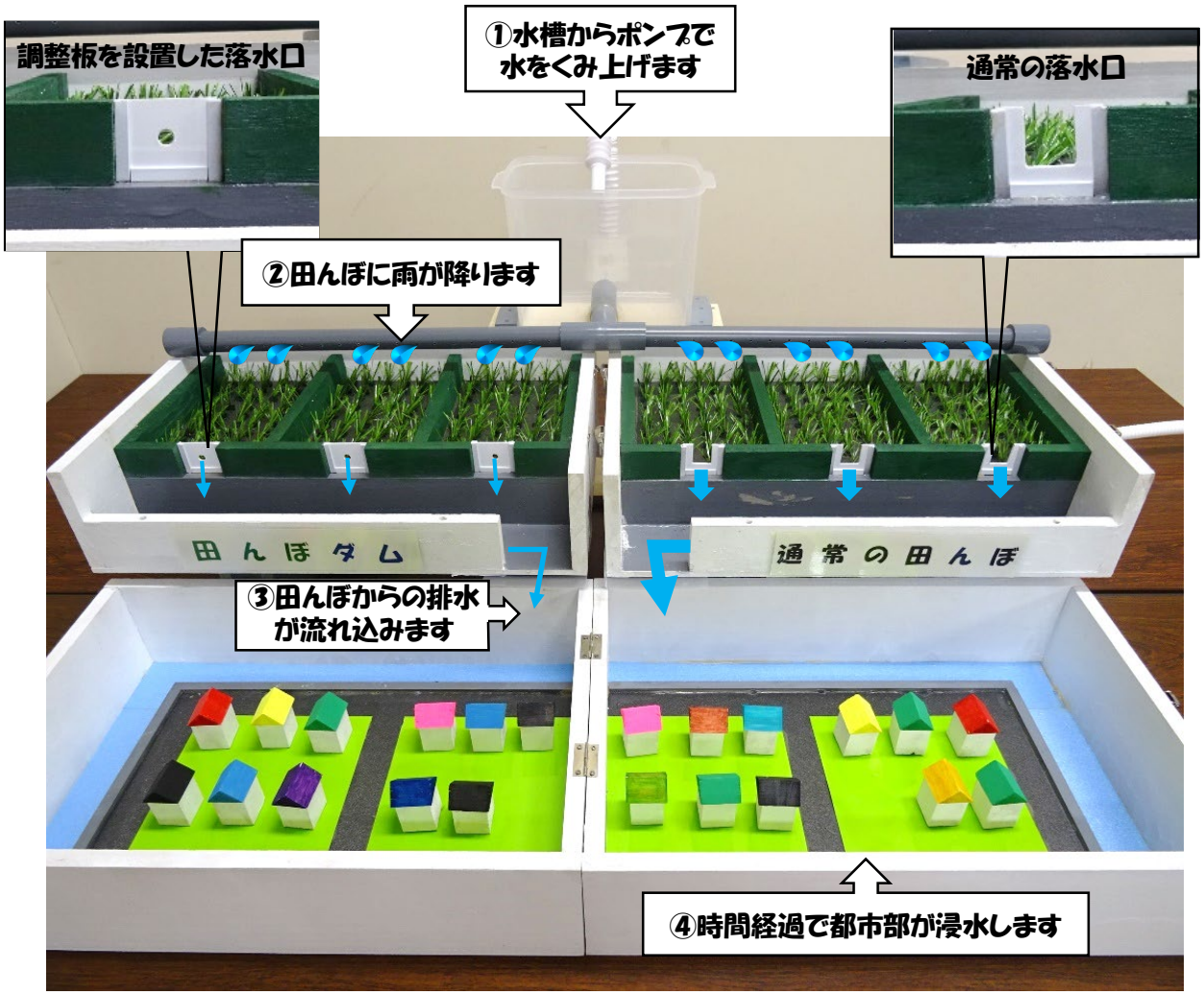
田んぼダムの普及促進にあたり，誰でも簡単に田んぼダムの仕組みが理解できるよう，田んぼダムの模型を製作しました。

模型は農村振興課職員の手作りによるもので，田んぼに見立てた上流部分と，住宅等の都市に見立てた下流部分からなり，実際に水を入れて実験ができるようになっています。

実験では，左右で区切られた通常の水田と田んぼダム実施水田に，同時に雨を降らせ，下流の都市が浸水するまでの時間を見比べることで，田んぼダムの効果を体験することができます。

今後，小中学生を対象とした田んぼダム出前授業などで模型を活用し，田んぼダムへの理解を深めてもらうこととしています。

田んぼダムの仕組みまるわかり！「田んぼダム試作1号」



田水郷（たすき）コラム　「稲刈り後に出現！あの秋の風物詩について」

残暑も日ごとに和らぎ，実りの秋がやってきました。田んぼでは稲刈り作業が盛んに行われています。

稲作では，稲を刈り取った後に乾燥させる手段として，古くから棒や杭などに稲を掛けて天日干しする方法が採られてきました。この時季，田んぼで稲束が棒に掛けられている風景を見かけたことがある方も多いのではないでしょうか。この方法には，地域によって様々な種類がありますので，ここで一例を紹介したいと思います！

架（はさぼ）干し

写真：第６回農美里フォトコンテスト

棒を横に渡し，稲束を架ける方法。
湿気に強いため，雨の多い地域でも用いられている。

杭（くいぼ）干し

写真提供：宮城県観光プロモーション推進室

地面に突き刺した長い棒に止め木を直角につけ，その上から稲束を積み上げていく方法。
写真は栗原市の「ねじりほんにょ」。

現在は、コンバインで収穫した後，大型の乾燥機によって短時間で乾燥させることが多くなり，架干しや杭干しをする地域は少なくなっています。しかし，架干しや杭干しは長い時間をかけてゆっくりと稲を乾燥させるため，お米への負担が少なく，また，稲を逆さまに吊すことによって，藁の栄養分や油分，甘みなどが下部のお米に伝わり，栄養とうま味が増すと言われています。

支柱を建てたり，稲を掛けたりするのはとても大変な作業ですが，美しく美味しい秋の風物詩として，守り伝えたい文化ですね。

皆さんも秋の農村に訪れた際は，それぞれの地域で稲の干し方に注目してみてください！

石巻市大川地区稲刈り状況（R3.9月）

～宮城県農業農村整備関係部所一覧～

県庁農政部

農山漁村なりわい課	022-211-2657
農山漁村調整班，交流推進班	
中山間振興班，６次産業化支援班	
農村振興課	022-211-2861
指導班，企画調整班，地域計画班，	
技術管理班，広域水利調整班，	
農村整備課	022-211-2871
事業経理班，換地・用地班，ほ場整備第一班	
ほ場整備第二班，防災対策班，水利施設保全班	

県出先機関

大河原地方振興事務所	農業農村整備部	0224-53-3111
仙　台地方振興事務所	農業農村整備部	022-275-9111
北　部地方振興事務所	農業農村整備部	0229-91-0701
北　部地方振興事務所	栗原地域事務所	農業農村整備部 0228-22-2111
東　部地方振興事務所	農業農村整備部	0225-95-1411
東　部地方振興事務所	登米地域事務所	農業農村整備部 0220-22-6111
気仙沼地方振興事務所	農業農村整備部	0226-24-2121
王城寺原補償工事事務所		022-345-5175

問い合わせ先
〒980-8570　仙台市青葉区本町３丁目８番１号
宮城県農政部農村振興課企画調整班
電話：022-211-2863　E-mail：nosonshinp@pref.miyagi.lg.jp
農村振興課HP：https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/